

眼科手術における Intense Pulsed Light 治療の有用性

6月25日(土)16:30-17:30

国立京都国際会館 第7会場(1F イベントホール内)

座 長

大鹿哲郎 先生 筑波大学医学医療系眼科



屈折矯正手術や白内障手術の患者満足度を左右する因子として、ドライアイやそれに伴う角膜上皮障害が挙げられる。自費診療である屈折矯正手術や、選定療養である多焦点眼内レンズ手術においては、「術後の不定愁訴」をいかに少なくするかがとくに重要である。そのためにも術前・術後の眼表面や涙液層の評価にも注視していく必要がある。

近年、IPL (Intense Pulsed Light) 治療がドライアイ・MGDの改善に有効であることが多くの臨床研究で示され、すでにドライアイの国際的ガイドラインDEWS II (2017)に標準的な治療として組み入れている。また、ASCRSは術前の眼表面疾患(OSD)スクリーニングを取り入れたアルゴリズムを発表し、8.6%の会員がIPLを採用していると報告している。

IPL治療が術前・術後のドライアイ対策として有用なのか、術後成績と患者満足度を向上させることが可能なのか、国内でいち早く治療に取り組んでおられる先生方に、その経験と実際をご講演いただく。

講 演

IPL療法の可能性

原祐子 先生 愛媛大学医学部眼科学教室

IPL療法ってウルトラな魔法？～臨床応用編～

今野公士 先生 八王子友愛眼科

※裏面抄録参照